

# 人生とは自転車のようなものだ 倒れないようにするには走らなければならない

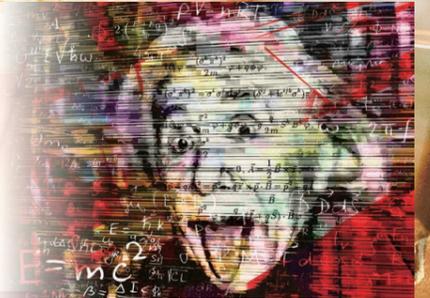
原爆投下から78年(1945年8月6日 広島原爆・8月9日長崎原爆)を迎えた今、  
熱烈な平和主義者であったアインシュタインの言葉を取り上げてみました。

# カ

ちから

# ことばの

北原照久コレクション  
1950年代のモーションディスプレイ「BICYCLE FOR TWO」



## 20世紀最大の物理学者「アインシュタイン」

(1879年〜1955年)

アルバート・アインシュタインはドイツのウルムで生まれました。1905年は彼の「奇跡の年」と言われ「ブラウン運動の理論」「光量子仮説」「特殊相対性理論」という3つの有名な論文を発表。1921年、数理解物理学への貢献、特に光電効果の研究によりノーベル物理学賞を受賞しました。1929年には相対性理論を発展させた「統一場理論」を発表。世界政府設立や核兵器廃絶を提言するなど、最後まで平和と共生を求めて闘い続けた人です。

可愛い女の子と一時間一緒にいると一分しか経っていないように思える  
熱いストロブの上に一分座らせられたらどんな一時間よりも長いはずだ  
相対性とはそれである

想像力は、知識よりも大切だ  
知識には限界がある  
想像力は、世界を包み込む

私には、特殊な才能はありません  
ただ、熱狂的な好奇心があるだけです

何かを学ぶためには、  
自分で体験する以上にいい方法はない

挫折を経験したことが無い者は  
何も新しい事に挑戦したことが無いということだ

私は、先のことなど考えたことがありません  
すぐに来てしまうのですから

過去から学び、今日のために生き  
未来に対して希望をもつ

大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである  
どうして自分を責めるんですか？  
他人がちゃんと必要な時に責めてくれるんだから  
いいじゃないですか

人は 海のようなものである  
あるときは穏やかで友好的  
あるときははしけて悪意に満ちている  
ここで知っておかなければならないのは  
人間もほとんどが水で構成されているということです

誰かの為に生きてこそ、人生には価値がある

## アインシュタインの逸話

日本のお辞儀という文化にも  
いたく感動した。アメリカに滞在  
中の湯川秀樹のもとを訪ね、「原  
爆で何の罪もない日本人を傷つけ  
てしまった。こんな私を許してく  
ださい」と激しく泣き出し、深々  
とお辞儀を繰り返したという逸話  
があるほどである。なお、この姿  
を見た湯川は「学者は研究室の中  
が世界のすべてになりがちだが、  
世界の平和なくして学問はない」  
という考えに至り、世界平和のた

めの運動に力を入れるようになったという。

アインシュタインが死去する  
前年の1954年に、「もしヒロ  
シマとナガサキのことを予見し  
ていたなら、1905年に発見  
した公式は破棄していたらどう  
と語った。

服装に気をつかってはどうかと  
言われた際、「肉を買ったときに

包み紙の方が立派だったら俺は  
くはないか」とやりかえしたこ  
とがあるという。

簡単な数字や記号を記憶するこ  
とが苦手だったとされる。ある新  
聞社のインタビュウの中で、光速  
度の数値を答えられず、記者から  
「押搦されると「本やノートに書い  
てあることをどうして憶えておか  
なければならぬのかね？」とや  
りかえしたという。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow.  
The important thing is not to stop questioning.

Life isn't worth living, unless it is lived for someone else.